

## 覚えておきたい応急手当のポイント

### ●出血

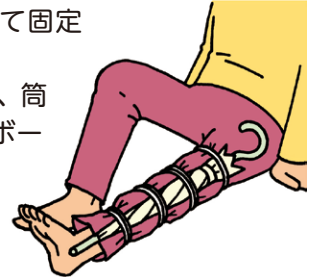
- ①出血部分にガーゼやタオルを当て、その上から手で圧迫する。
- ②傷口は心臓よりも高い位置にする。

※感染を防ぐため、ビニール手袋やビニール袋を使用するのが望ましい。



### ●骨折

- ①折れた部分に副木を当てて固定し、医療機関へ。
- ②適当な副木がなければ、板、筒状にした週刊誌、傘、段ボールなど身近にあるもので代用する。その上からテープでとめてもよい。



### ●やけど

- ①流水で冷やす。
- ②衣服の上からやけどをした場合は、無理に脱がさずそのまま冷やす。
- ③水疱（水ぶくれ）は破らない。
- ④冷やした後は消毒ガーゼかきれいな布で保護し、医療機関へ。



### ●ねんざ

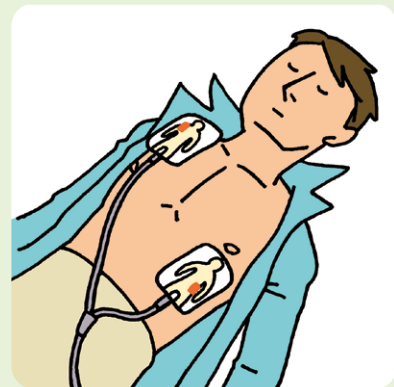
- ①患部を冷やす。
- ②靴をはいたまま、上から三角巾や布で固定する。



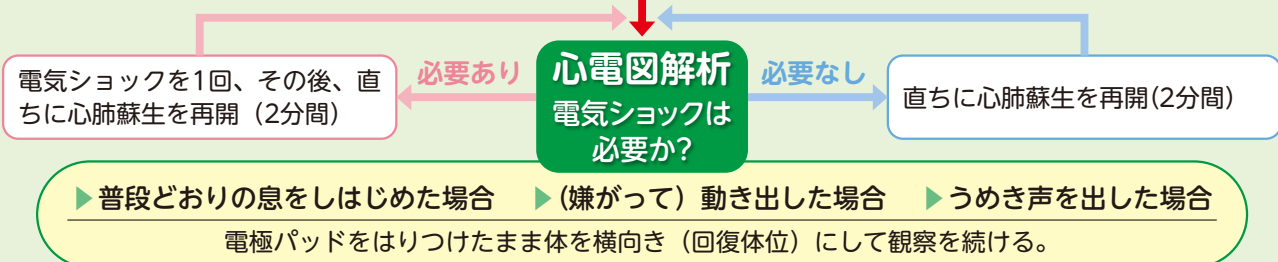
## AEDの使い方

AED（自動体外式除細動器）が到着したら、傷病者に装着し、AEDの音声指示に従って操作してください。現場にAEDがある場合は、AEDを優先的に使用しましょう。

- AEDとは、心停止状態にある心室細動を電気ショックによって除去（除細動）し、心臓を正常な状態に戻す装置です。
- 自動的に傷病者の心電図を解析し除細動の必要性を判断したうえで、音声メッセージにより必要な処置を指示します。
- 心停止から5分以内の除細動の実施が、心停止状態の傷病者の蘇生・社会復帰の確率を高めます。救急現場にAEDがある場合には、落ち着いてAEDを使いましょう。



### AEDの装着



### チェック!

●AEDは2分おきに自動的に心電図解析を始め、そのつど「体から離れてください」などの音声がかかります。傷病者から手を離し、周囲の人にも離れるよう声をかけてください。

●「ショックは必要ありません」のメッセージを、「心肺蘇生をやめてもよい」と誤解しないようにしてください。

### アドバイス

### AEDの設置場所

AEDは、駅、空港、競技場、劇場、役所、学校など人が集まりやすい場所に赤やオレンジ色の専用ボックスに入って設置されています。（磐田市の設置場所は、磐田市ホームページ「ページ番号：1001227」人命救助-AEDの設置状況から確認できます。）